

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

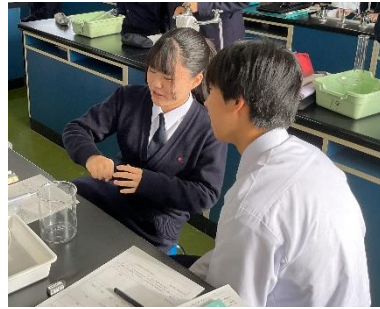
★「非認知能力とエージェンシーを高める授業」2回目の実践★

職員の兒島佐理枝です。今年度は、群馬県総合教育センターで長期研修員として非認知能力の育成について研究しています。今回は12月に実施した「本校生徒が課題とする非認知能力（計画立案力、実践力・実行力）を育成する」ことをねらいとした1年生の生物基礎の1時間（1・2・5組兒島担当、3・4組植栗先生担当）の授業実践2を紹介します。

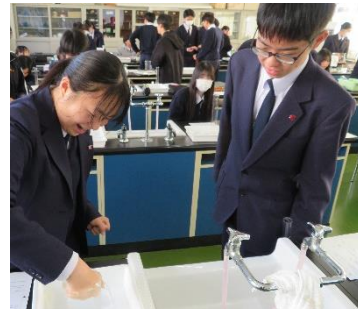
1. 授業実践 学習課題「1日に心臓から送り出される血液量はどれくらい(何L)なのだろうか。」を解決するための実験方法を自分たちで考え、実験を行い、得られた結果から新たな仮説を見出す、という展開の授業を行いました。



実験計画を立てる①



実験計画を立てる②



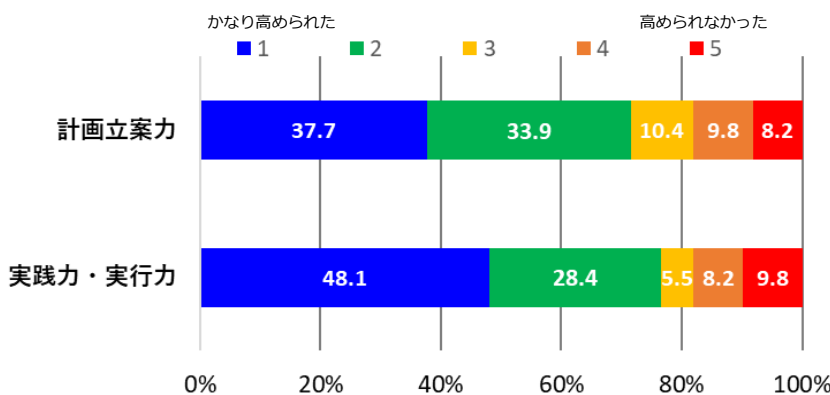
実験の様子①



実験の様子②

2. 実践後アンケート結果

問 この授業で非認知能力は高められましたか



【生徒の感想】 ●少ない情報からどのように実験をするのかペアで話し合っ、進めることができた。また、実験の途中で**もっと効率良く進める方法はないか考え行動することができた。** ●計画を立てて実践する力を高められた。自分達で適した実験方法や予想を立てられたと思う。**前の実験では計画立案力が足りないと自覚していたので今回はそれを少しでも改善出来て良かった**と思う。 ●自ら率先して行動し考える力。 **実験の方法などを1から自分たちだけで考えたから。** ●自分で考えて行動する力と協働力。実験方法を一緒に考えて、**試行錯誤しながら自ら進んで指示したり、取り組んだりした。**



新たな仮説を見出す

兒島の感想

1年2組の授業は、SAHに係る公開授業として、県内の21名の先生方に来校していただき、参観していただきました。授業後、先生方からは「生徒たちが主体的に学ぶ姿が素晴らしかった」と称賛の声をいただきました。**1年2組の生徒だけでなく、本校生徒全員への励ましと捉え、大変嬉しく思いました。**2回の授業実践は非認知能力やエージェンシーの育成に焦点を当てて行いました。その結果、生徒たちは主体的に学習課題に取り組み、協働的に学びを深めている姿が見られ、認知能力・非認知能力の育成の両面で大きな手ごたえを感じています。授業実践にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

★教頭より★ 『兒島先生と植栗先生の授業実践のおかげ』 & 『1学年生徒の理解と協力』のおかげにより、素晴らしい授業となっています。県教委の方々や県内の先生方に授業を見ていただきましたが『生徒が生き生きと授業に参加する様子』に感激したとおっしゃっていただき、『教師側の実践と生徒の取組』が『生徒の自主性を高める学び』につながっていると実感しています！

先日『SAH非認知能力アンケート』の結果を公表させていただきましたが、4月と比較すると『設問10』の結果において『計画立案力』が『14位→9位』とアップし、『実践力・実行力・GRIT』も『15位→14位』とわずかではありますが上昇しています。極めつけは『設問12』において『非認知能力が高まった場面』として、従来上位に入る『部活動』や『学校行事』を超え、『授業』が1位になりました！！これこそ『教師の実践の意図』を生徒がよく理解し、『認知能力と非認知能力』のどちらも育成しようとしている『生徒の意識の高い取組』のたまものだと感じています！ぜひこの取組を継続していきましょう！教頭 星野 亨

★校長先生より★ 授業の目的は認知能力の育成です。今回の授業で言えば、学習した内容が、どのように体や生命の維持に関係しているかを考察するというのが大きな目的になるでしょう。この後の学びとしては、例えば体全体の血液量と今回の実験から何が分かるのかを考察してみるのも面白いでしょう。一方、非認知能力は授業の中で焦点を当てるものになります。今回の授業では「計画立案力」と「実践力・実行力」です。この非認知能力を先生や生徒の皆さんが意識し、言語化し、振り返りを行うことで非認知能力を高められると考えています。アンケートの中で皆さんがこの非認知能力について自然なコメントをしていることから授業の中でこの効果が上がっていると考えられます。言語化、振り返りを意識してもらえると良いと思います。 校長 原 拓史